

有島武郎全集、第十卷 大13、12、10 叢文閣

1922年、6、29 東京於

淋しい然し実質的に恵まれた山の中の御生活を遥察申上げます、そこから空虚がちな都会の生活を想像なさったら憐れみをさへ感ぜられるでせう。「一房の葡萄」おのぞみにまかせ送呈します。それをあなたが考へてみて下さった事を喜びとしながら。

有島武郎全集第14巻 昭和60年6月30日 筑摩書房